

ニュージーランド：Covid 患者を安楽死させる医者に 1000 ドル払う

Jamie White

December 27, 2021

<https://www.infowars.com/posts/bombshell-new-zealand-pays-1000-to-doctors-for-euthanizing-covid-19-patients/>

⇒「場合によっては、Covid-19 患者に対しては、致死補助を可能とする」と、ニュージーランド厚生相が発表。

⇒新しい安楽死法案によって、政府は、開業医が生命を終わらせる処置を取るごとに、1,082 ドルを支払うことが可能となった。

ニュージーランド厚生省 (MOH) は、COVID-19 患者が、自殺補助 (assisted suicide) を受けることができることを確認した。

加えて、政府は、医者が安楽死を施す患者一人につき、およそ 1,082 ドルを支払うであろう、とこの島国国家の最も有名な新聞 Stuff は報じた。

<https://www.stuff.co.nz/national/politics/300428689/assisted-dying-doctors-to-be-paid-1087-to-perform-procedure-starting-next-month>

反安楽死集団 DefendNZ と呼ばれる人たちが、先月、公的情報法による要求を政府に送り、「生命の終わり選択法」(EOLCA) と呼ばれる、新しい安楽死法について説明を求め、特に、「厳しく入院させられた」Covid 患者に関する点について質問した。

<https://www.defendnz.co.nz/>

<https://www.health.govt.nz/our-work/life-stages/assisted-dying-service/assisted-dying-information-public/assisted-dying-eligibility-and-access>

「Covid-19 に罹って厳しく入院させられた患者は、もしある開業医が、彼らの予測によって 6 か月以下の命と判断した場合には、この法の下で、自殺ほう助、または安楽死を受ける可能性がある、ということなのか？」と、この集団は問うた。

<https://www.defendnz.co.nz/news-media/2021/12/19/exclusive-euthanasia-expansion-moh-says-kiwis-with-covid-19-can-now-be-eligible>

MOH からの返答は以下のようなものだった（強調が付加されている）：

致死補助（assisted dying）には明らかな選択基準があります。そこに含まれるのは、その人物には終末的症状がなければならず、彼らの人生は6か月以内に終わる、と予測できることです。

終末的な病気が予測される最も多いケースは、治療に効果がない場合です。EOLCA は、その選択は、付き添いの医療実行者（AMP）と、独立した開業医によって決定されると述べています。

選択はケース・バイ・ケースが基本であり、したがって聖職者は、誰が選ばれるべきかについて発言はできません。ある状況においては、COVID-19 に罹った人物が、致死補助を受けるよう選択されることもあります。

この新しい法案のおかげで、ニュージーランド政府は、医者たちを動機づけ奨励して、安楽死を受ける患者一人につき、1,000 ドルを支払っている。

「医者たちは、政府からの支給 1,000 ドルとプラスの諸費用を、彼らが行う安楽死 1 件ごとに受けている」と Catholic Herald は報道したが、加えて、「しかし、この国の 1 万 6,000 人の医者のうち、96 人だけが参加を申し出ており、国家の 32 のホスピスのうち、1 つだけを除いて、あとすべてが、安楽死は認めないという意志をもっていると表明した。」

<https://catholicerald.co.uk/new-zealand-okays-euthanasia-for-covid-patients/>

英国の緩和医学（palliative medicine）教授で男爵夫人の Finlay of Llandaff は、ヘラルド紙に対し、EOLCA は生命倫理の根本原理を裏切っていると言った。

「これはきわめて奇怪な話です——人々が完全に回復できるウィルスを、完全に閉鎖することで、市民を守ろうとしていた国家が、今、これらの患者は、医者によって殺されるべきだと主張するとは…」と、フィンリーは言った。「それは医学の精神を逆立ちさせるものです。」

「実はあなたは、死を予言することは、100 パーセントできなのです」と、彼女はつけ加えた。「だから、彼らが死にかかっているときでも、彼らを支え、ドアを開けておかなければならない。」

同様に、American College of Physicians (ACP, 医科大学) は 2017 年に、安楽死を非難し、「医者が幫助する自殺は、生命の終わりにおいて起こってくる困難な問題への、治療でも解決でもない」と論じた。

https://www.acponline.org/system/files/documents/clinical_information/ethics-professionalism/ethics-and-the-legalization-of-physician-assisted-suicide-2017.pdf

現実的倫理、診療の習慣や方針、その他の関心事を根拠として、ACP は、医者の幫助（援助）する自殺の合法化を、支持しない。このような習慣は、患者と医者の関係の性質から見て問題であり、その関係とその職業への信頼を傷つけ、医療という職業の社会的役割を、根本的に変えてしまうものである。

さらには、この議論において問題となっている原理の根底には、医療における諸々の責任と、診療上の判断や、証拠や、倫理に基づいてケアを与える医師の義務がある。一人の人間の死の、様態や時期をコントロールすることが、医療の目標であったことはなく、そうあってはならない。しかし、質の高いケア、効果的なコミュニケーション、共感あるサポート、それに正しく豊富な知識によって、医者は、患者を助けて、彼らがいかに人生の最後の章を生き終えるかの、多くの側面をコントロールすることはできる。

関係のある話として、最近、スウェーデンが「自殺ポッド（人の入るケース）」なるものを発表した。これは「苦痛のない」死をもたらすとされる、安楽死装置である。

何とタイミングのいいことか。

しかし安楽死支持者にとって不幸なことに、COVID のこの穏やかなオミクロン変異株は、人を「6 か月以内に」殺すような「終末的病気」を起こさせることはない。

現実的には、典型的な中国ウイルスは、ほとんどの年齢集団で、99 パーセントの生存率をもっている（高齢者を除いて）。<https://reason.com/2021/08/09/covid-19-is-probably-99-survivable-for-most-age-groups-but-politifact-rated-this-false/>

では、どうして政府は、COVID 患者の自殺ほう助を、このようにに勧めるのだろうか？

[訳者 Greatchain 注]

これには多少の予備知識が要る。ニュージーランドは小さな島国だが、英、米、カナダ、オーストラリアと並んで、いわゆる Five Eyes の 1 つとして、現在、グローバル・エリ

ートという「悪」に露骨に協力し、最も自国民を苦しめている政権の1つである。この5か国は、彼らの立場からは悪の中枢であり、英国王室という強力な暗黒のエリートに忠誠を誓っている。

彼らの取った安楽死や患者の自殺ほう助を、国家の政策として認めるまでは、まあいいとしよう。しかし、これを奨励して医者や病院に報奨金を与えるというのは、歴然と人口削減と狙ったものであり、全人類を敵に回す国家犯罪である。理由はどうあれ、認めることはできない。このような者たちが、万一、強力な国家連合を作って、これを習慣化するとしたら、我々は断じてこれを許してはならない。かりに我々が、彼らに迎合しなければ外交上不利になるとしても、この一線を超えることはできない。それは我々が魂を悪魔に売り渡すことである。

ここには、医療や医者のあり方について、ACPの卓見による、非常に重要なことが述べられている。このウイルスには治療薬がないとか（実際はイベルメクチンという妙薬がある）、重病だからといって、医療従事者が人の生命を終わらせることはできない。まず医者と患者の間には、特別の関係があると言わねばならない。信頼、共感、やさしさの中の威厳といったものだ。医者は人の命を預かる権威者であるが、権力者であってはならない。人の死は、単なる生物学的な終わりではない。人が生きて死ぬのはなぜか、という霊的な次元の問いが、常に新しく、そこに生ずるのでなければならない。

MOHによる解答は、それを頭から否定するものである。それは医者として最も資格に欠けた者、唯物論者の解答である。幸い、アメリカの開業医やホスピスで、この医療方針に賛成する者は、ごく少数だったようである。これは医療者の間に理性や良心が、依然として働いている証拠であり、心強さを感じさせる。

しかしこれは私事であり、前にも書いた話だが、今から2年2か月前、私は約一週間、入院を体験し、そのとき、このニュージーランド病院のような扱いを受けた。コロナウイルスがまだ流行していなかった時で、私は自分の病気を、後に「せん妄」と診断した（病院は全く診察してくれなかった）。これな非常に不思議な病気で、今考えれば非常に貴重な、恐ろしい異界の旅のような体験を、何ものかが私に与えたと思っている。

しかし同時に私は、回復不能の精神異常者として扱われ、ダーウィンの・優生学的に、この世から除くべき「徒食者」として分類された。これはこの病院の一部の、「医者に良心はいらない」という医療倫理を否定する一派が、私の周囲にいたことでわかった。彼らのある者は、私をすでにあの世の者とみなしてか、私にタメ口を利く者もいた。私はこんなことを私怨で言っているのではない。医療者は患者にとって、信頼する指導者であり、自分の品位を傷つけるようなことを言うてはならない、と言っているのである。

あれから2年後、これと同じようなことが、世界中で起こっている。人間の尊厳を根本から否定するような暴力的な出来事が、今、アメリカをはじめ、あらゆる場所で起こっている。